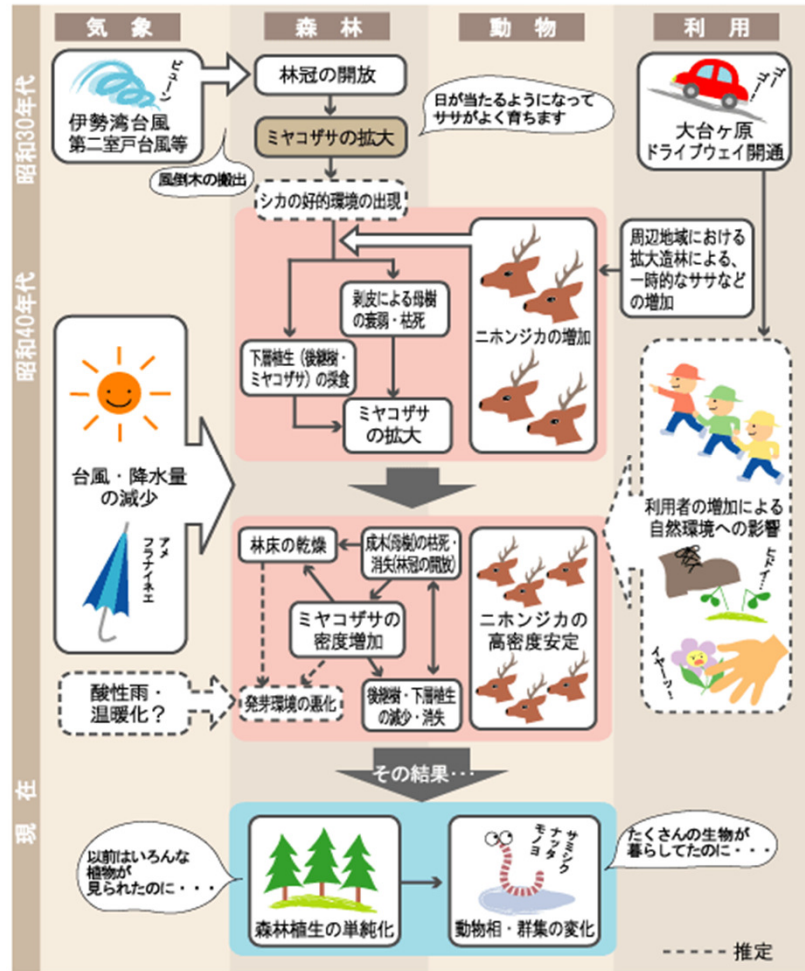
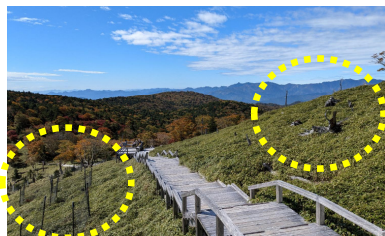


大台ヶ原における森林衰退の流れ（推定）



出典：吉野熊野国立公園 大台ヶ原 森林衰退の流れ（環境省HP）

散策道周辺の立ち枯れた木々



樹皮食害が見られる木



画像提供：奈良県景観・自然環境課

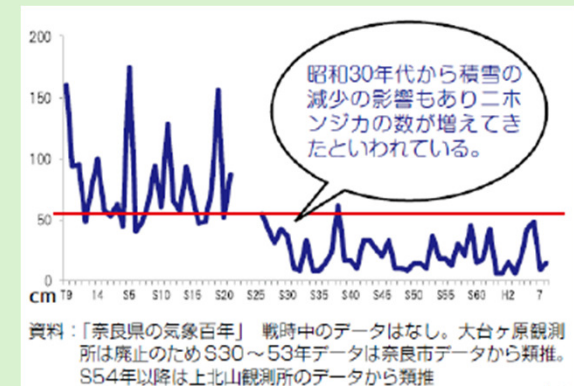
大台ヶ原は奈良県と三重県の境に位置する台高山系に属し、標高1,300~1,700mの台地状地形で、年間降水量が3,500mmに達する日本有数の多雨地域です。山上にはトウヒ等の亜高山性針葉樹林や、ブナ、ミズナラ等の冷温帯性広葉樹林が分布しています。

一方、台風による倒木、道路開通による人の立ち入り、シカの食害、温暖化など、複合的な要因により森林植生の劣化が進んでいます。

なぜシカが増えているの？

ニホンジカの生息域拡大や生息数の増加は、猟師不足など様々な要因がありますが、積雪量の減少でエサ不足が解消するなど地球温暖化による影響も一因と考えられています。

大台ヶ原での積雪量の推移 (cm)



出典：奈良県資料

<増え続けるニホンジカへの対策>

大台ヶ原は国有林であり、吉野熊野国立公園にも含まれるため、環境省が主体となってシカの個体数調整や植生の保全対策を実施しています。

奈良県では「奈良県ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画（第7次）」に基づき、シカの個体数管理、被害対策、生息環境管理を柱とした、総合的な取組を環境省など国の機関と連携して進めていきます。

増えているシカを適正に管理することで、生物多様性の保全や災害（土砂流出など）の未然防止にもつながります。